

全視情協 / ないーぶつうしん	2000/12/18
<b>NAIIV</b> 通信	No. <b>26</b>
発行 発行責任者 川越 利信	
<b>全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)</b>	
(社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内	
Tel.06-6441-0015 Fax.06-6441-0039 E-mail:naiiv@kurumi.sakura.ne.jp	

— 主 な 内 容 —

- 全視情協茨城大会報告
    - 施設長会議(平成12年度第2回全国視覚障害者情報提供施設協会総会) ... 2
    - 全体会1 総合ないーぶネットについて ..... 4
    - 全体会2 これからの情報提供施設のあり方 ..... 5
    - 分科会1 デイジー録音図書製作について ..... 6
    - 分科会2 「点訳のてびき」の改訂について ..... 9
    - 分科会3 これからの施設運営 ..... 11
  - 第19回音訳指導技術講習会(第5回音訳指導員認定講習会)報告 ..... 14
  - 平成12年度ないーぶネット研修会 ..... 16
  - 「総合ないーぶネット」進捗状況 ..... 19
  - デイジー窓口担当者打ち合わせ会 ..... 21
  - デイジーコンソーシアム等に関して ..... 22
  - 点字技能検定試験せまる! ..... 25
  - お知らせ..... 26
- 視覚障害者生活情報センターぎふ館長 藤野克己氏 厚生大臣賞受賞  
全視情協事務局のE-mailアドレス変更

## 全視情協茨城大会開催

去る10月25日(水)~27日(金)、水戸プラザホテルにおいて第26回全国視覚障害者情報提供施設大会(平成12年度全視情協茨城大会)が開かれた。全国から80施設、約250名が参加しての盛大なものとなった。詳細な報告書は後日大会事務局より発行されるが、今回は主な会議、研修会のみ報告する。

施設長会議（平成12年度第2回全国視覚障害者情報提供施設協会総会）  
（25日10:00～11:30）

議長	北海点字図書館長	後藤市郎
	京都ライトハウス点字図書館長	田尻 彰
議事録署名人	山形県立点字図書館長	高橋 啓
	福岡点字図書館長	白土なるみ
司会進行	ライトハウスライブラリー館長	金津和栄
出席者	45施設（他に、委任状提出40施設）	

### 概要について報告

#### 川越会長挨拶

今回の総会は法人化の問題について審議をお願いしたい。なぜ法人化するか。日盲社協は盲人福祉全体に対応していく役割があり、1部会のきめ細かな論議の対応は難しい。情報はめまぐるしく変化しており、スピーディに扱わないと情報の格差は増大する。全視情協が情報の専門組織として人格を持って社会と対応していきたい。良い形にしながら法人化を成就したい。

### 盛田参与経過報告

NPO法人化に向けての経過を報告する。第1回総会で決議された結果を踏まえて厚生省に再度出向き、社団法人化等について説明したが、あくまでも新規法人化は認めない方針であり不可能との回答であった。厚生省から所轄は経済企画庁であるがNPO法人で設立したらどうかと強い指導があった。会長とその話を聞いた上で一応その方向で作業を進めていくことにし、その際厚生省にはその後の協力を文書でお願いした。その後NPO法人化に向けて申請手続きの準備を事務的に進めてきたので、これからその資料に基づき説明をし、審議の上、決議をいただきたい。

### 総会

事前に配布の総会資料については、前日の理事会で不明確な部分を整理した。議事に入る前に、それを踏まえ川越会長から以下について提案説明があった。

#### 1 法人化に伴う会費の問題

日盲社協の加盟施設には新たな会費は生じない。現行の「ないーぶネット利用料」を会費の形で扱う。逆に言えば会員は「ネット利用料」は無料である。

#### 2 日盲社協情報サービス部会とNPO法人との事業の区別

NPOは「ないーぶネット」を主に扱う。

#### 3 理事長報酬の無料化

13年度予算計上の理事長報酬60万円は0とする。

#### 4 税金問題について

12年度は「活動するあなたに」改訂版発行による収入見込みで試算すると、約20万円の税金が生じると予測される。

以上の修正提案があり、その後質疑応答に入ったが主な質問は以下のとおりである。

質問 大阪に事務所を置く案だが、理事の選任についてはどのような形を想定か。

答 当面は日本ライトハウスにお世話になる。理事は、今年度は現行体制で、来年度からは新たな観点で選出する。

質問 NPOでは個人・企業からの寄付金が受けにくいとその辺の考えはどうか。

答 NPOは3年後に見直すことになっているので、免税措置も含めてそれに期待をかけた。NPOは確かに免税措置に問題があり、一般の企業や個人からの寄付は期待し難いので、それを踏まえて予算を立てたい。

#### 議事（議案説明並びに質疑応答）

第1号議案 特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会設立認証申請の件  
申請の趣旨は、情報の高度化により格差が増幅する傾向にあり、任意団体では自ずと限界があるため、法人化することで情報バリアフリーを果たしていくというもの。

第2号議案 活動目的等の確認の件（特定非営利活動促進法第2条第2項第2号及び第12条第1項第3号のいずれにも該当する団体であること）  
宗教・政治・暴力団等に関係ない団体であることの確認。

第3号議案 定款承認の件

スタイルはNPO法人手続きの書式に基づいて第1章～第10章までを作成した。中味は現在の協会会則を尊重して書き上げたが、会費等について一部修正が加わった。

第4号議案 設立者及び設立代表者の選任の件

役員は今年度は現理事が就任。設立者は本日の出席者及び文章で出席を意思表示した方（委任状提出施設長）設立代表者は理事長に就任していただく予定である川越会長とする。

第5号議案 設立当初の財産目録承認の件

内容は6月定例総会で議決されたもの。

第6号議案 設立初年度の事業計画書及び収支予算書の承認の件

6月総会で既に承認されているものを指定された用紙に簡潔にまとめたもの。

第7号議案 設立翌年度の事業計画書及び収支予算書の承認の件

13年度は基本的には12年度をもとにした。新たに予定されているものは加えた。

以上、資料に基づいて議案説明があり、質疑の後、第1号議案～第7号議案までの採決の結果、賛成40、反対0（出席45施設、委任状提出40施設）の圧倒的多数で全議案が採択された。

（記録：群馬県立点字図書館館長 茂木敏子）

## 全体会1 「総合ないーぶネット」について（25日14:40～17:20）

司 会：北海点字図書館 副館長 後藤健市

### 1. 点字図書館情報ネットワークに対する全視情協の方針と経過報告

全国視覚障害者情報提供施設協会を代表し、副会長の藤野克己氏より報告が行われた。「てんやく広場」がスタートした時の状況とその運営や機能の拡大、全視情協のネットワークとして位置づけられた「ないーぶネット」について、そして「総合ないーぶネット」への取り組みと今後の課題が簡潔に述べられた。

### 2. 「総合ないーぶネット」の理念・導入の方法と初期データベース構築について

開発委員会の村井・襟川・勢木・蕪木・吉弘各氏より、配布資料とスクリーン画面を使用しての報告が丁寧に行われた。＜ネットワーク機能一覧＞ではその基本機能、統計処理、AB01などデータベースの定期更新、国会図書館への登録が述べられ、＜総合ないーぶネットの特徴＞では貸出業務に直結した図書所蔵目録、TRCマークの全面採用、データの入力や更新、エーデルなど一次データの特徴、電話による目録検索などを可能としたテレフォニーサービス、視覚障害職員対応システムなど、情報ネットワークとしての特徴が述べられた。さらに＜総合ないーぶネット実施に際しての各施設の役割＞ではオンラインを機能させるために会員施設の積極的な参加を呼びかけ、＜総合ないーぶネット導入の方法と各施設の準備＞では自館目録の整備、利用者データの整備、バーコードの貼り付け、電話回線の確保、図書管理システム向け自館製作分目録データの配布、差分データの登録、今後実施予定の職員研修に関する説明があった。

また「総合ないーぶネット」の構築にあたり、補正予算を受託した施設の日本点字図書館の滝沢・野村両氏より機器等の配布スケジュールについての説明があった。

### 3. 利用者への情報提供をより進めるために、図書館間の所蔵情報の整備と情報の共有を！

報告の最後を締めくくる形で、サービス委員会委員長の小野俊己氏より報告が行われた。総合ないーぶネットを利用した図書館サービスを真に有効にするための書誌データの標準化、そのための入力規則ワーキンググループの発足について述べ、入力規則作りの考え方ではTRCに典拠した具体例が説明された。ネットワークの活用によるサービス向上にむけて多くの図書館が参加し、“育てるネットワーク”を合言葉に、データベースの構築と維持への呼びかけがあった。

（記録：日本点字図書館 赤塚節子）

## 全体会 2 これからの情報提供施設のあり方（26日15:00～17:00）

司会進行：視覚障害者生活情報センターぎふ 館長 藤野克己  
日本点字図書館 館長 田中徹二

視覚障害者情報提供施設全体のあり方について4つの特色のある施設から意見発表を行い、21世紀に向けて施設がどのような方向に進むべきかを探りたい。

### 発表1 ライトハウスイブラリーにおける視覚障害者に対するサービスの現状と課題 （ライトハウスイブラリー 浅野 紳）

島根県は人口77万人。視覚障害者は3800人で高齢化が著しい。視覚障害者のほとんどが医療関係に就労している。

昭和35年法人設立。「ゆりかごから墓場まで」を理念に、盲児施設、知的障害者更正施設、特別養護老人ホーム、盲養護老人ホーム、視覚障害者情報提供施設を経営。

この中でライトハウスイブラリーは、点字図書館の貸出、日常生活用具の紹介・販売、手芸教室等サークル活動の支援、点字パソコン訓練、ガイドヘルパー養成等、7事業を実施。中途失明者に対するリハビリ事業も行っている。今後、リハビリテーションを重視し、取り組んでいきたいが、図書館職員が業務を兼務しており配分が難しい。

### 発表2 北点の新たな事業展開

（北海点字図書館 副館長 後藤健市）

昭和23年、ヘレン・ケラー女史来道を記念し、昭和24年開館。

十勝体感ツアーとして、北海道の大自然の中でパラセイリング・川下り等アウトドアスポーツを通じ、ボランティアの育成・交流を図り、また、名刺に点字を入れる運動を通じて一般社会に点字の理解と普及を図っている。他に、「十勝体感の森」整備事業として広大な土地を利用し、目の不自由な人たちのフィールドづくり、子供の環境教育の場の建設を進めている。

地方の情報提供は公共図書館にシフトしていくと考えられるが、地域の間人関係を通じて新しい事業を展開していきたい。

### 発表3 民間総合施設における情報提供サービス - その現状と課題 -

（京都ライトハウス点字図書館 館長 田尻 彰）

京都ライトハウスは、子供の養育施設、中途失明者訓練施設、盲導犬訓練施設、三療訓練施設が揃っており、地域的な連携をもとにリハビリのネットワーク化がされている。京都府視覚障害者協会本部もあることからすべてのサービス対応が可能である。

サービス推進体制づくりの課題としては、以下のようなものがあげられる。

情報媒体の多様化への取り組み

新しい情報機器の活用とバリアフリーな環境づくりを進め、ユーザーのニーズに応じた図書館づくり  
障害程度、年令、中途失明者など、それぞれの状況に応じた多様な情報提供を行い、DAISY等使い勝手の良いものを提供していく  
情報発信拠点の役割として、ボランティア、読者への対応  
図書館の啓発宣伝活動の取り組み

発表4 目の不自由な人のデジタルデバイド（情報格差）をいかに解消するか  
日本ライトハウスにおけるパソコン支援事業の取り組み

（日本ライトハウス盲人情報文化センター 竹下 亘）

視覚障害者がEメールを使用し、誰とでも自由に情報交換ができる喜びを味わっている。これらの新しい情報手段に点字図書館としてどのように対応していくのか。

IT（情報技術）は視覚障害者にも劇的な力を持っている。しかしながら、ITを利用する一般人と、これを使えない、あるいは使いたくても使えない視覚障害者との間に情報格差が拡大している。この格差解消の役割を情報提供施設が負うべきである。日本ライトハウスでは、パソコンサポートボランティアの養成やウィンドウズ、インターネット講習会を開催。

今後の課題としては、国レベルでの継続的な予算獲得要求（自治体レベルでは地域格差が拡大する）、専門職員の配置とボランティア養成、弱視・盲ろう者など多様な障害者の情報格差、ITを使えない人への情報提供（従来の情報サービスの充実・拡大）などがあげられる。

川越会長のまとめ

経営の困難性、財政状況の悪い中で、点字・音声の業務から、盲人福祉についてサービスメニューの多様化が進められている。

地域型施設と情報特化型施設に選別されてきている。日本点字図書館・日本ライトハウスなどの都市型施設では情報問題に特化していくことができるが、地域型施設ではサービスメニューを多様化せざるを得ない。しかし、多様化を進めることは情報サービスの鈍化につながる恐れがある。

（記録：三重県点字図書館 館長 竹島信也）

分科会 1 デイジー録音図書製作について（26日9:00～12:00）

司会進行：島根県西部視聴覚障害者情報センター 和田 尚

参加者：83名

1. 事例発表

MDに係る録音図書の製作（小樽市総合福祉センター点字図書館 遠田芳男）

以前はオープンテープで保存していたが、経年劣化・保存スペースの問題などを考

えてMDを選択（H8.9月より）

- ・MDの長所...編集が簡単
- ・MDの短所...録音時間、MDからカセットへのコピーに時間がかかる
- ・MDを使って感じたこと...カセットテープには「サー」という音があるが、MDを聞いたとき、目の前のカーテンを引いたような感じがした。それ程クリアな音質。
- ・光磁気ディスクだが、アナログ形式で使用している

デジタル録音及びWAVE編集について（日本点字図書館 天野繁隆）

- ・WAVEインポートを使うと速い（1時間が2分くらい）
- ・98年8月よりMOでの録音、それまではオープン
- ・従来の家庭録音を継承したい...カセットデッキ同様の操作性でデジタル録音  
MOデッキ...セクション、フレーズ概念あり  
デジターへの変換可能、編集が簡単  
操作もカセットデッキに近い
- ・マスター保存はテープの単位で。MO1枚にテープ片面分の録音
- ・「ノイズの補正」について  
音質補正ソフトを安易に使わない。  
厚生省委託CD図書（2580タイトル）の「唐詩選 下」（マスター日点）は  
編集の際にノイズゲートをかけているために聞き取りにくくなっている  
音質のよい、雑音のないマスターテープ作成が基本  
音質が悪いが、どうしてもCD化の必要のあるテープのみに使用すること。安易  
に使うべきではない

デジター編集の際のミキサーを使った音質補正（雑音除去）の方法

（名古屋盲人情報文化センター 小川俊樹）

- ・ソフトに比べてミキサーは安価
- ・使用しているのは、オーディオテクニカ製（イコライザー付き）  
デジター編集にもテープ編集にも使える  
ボリュームの調整に使用
- ・雑音が多く、フレーズで切れないときにイコライザー機能を使用する。  
低周波ノイズ...100、330Hzを落とす  
高周波ノイズ、テープヒスノイズ...10K、3.3Hzを落とす

デジター図書校正（福井県視力障害者福祉協会点字図書館 兄父由起子）

- ・昨年9月より編集作業...作業システムの必要性を感じた
- ・勉強会の開催...情報交換の場
- ・編集ボランティア...音訳ボランティアより。現在20名が活動中
- ・校正システム...施設での編集と自宅での編集  
CD完成後は必ず入念に各自プレクストークでチェック

検収チェックは職員が行う。最終自己チェックをきちんとやってもらっている  
ので、7、8割は合格

- ・新刊ものは1ヶ月以内にCD化(利用者にもPR)
- ・今後はマスターの保存形態について考えていきたい

## 2. 質疑応答

Q. テープはイレースで何度でも使えるが、MO、MDは?

A. 百万回でも平気(メーカーによる)

Q. MDにダイレクト録音をしているのか?

A. 小樽: マスターはオープンに録音し、MDにおとしている

Q. MOでの家庭録音の場合、まわりの雑音のため、フレーズが切れないことはない  
のか?

A. -30db以下になったら、無音と判断し、フレーズが分かれませんが、録音は出来る。  
\*ソーステープ録音をきちんとしておけば、取り込めないことはない。取り込め  
たものについて、手を加える(音質補正など)必要はない。

Q. 2580タイトルのうち、紛失・故障した場合の対処は?

A. リハ協がDVDで保存している。近隣の施設に貸出依頼した方が早いのではないかと。

Q. 元テープの音質とCD化したものの音質、スピードが変わっているのはなぜか?

A. 1000Tの倍速はアバウト。このため変化が起こる。  
同じ機械で録音・再生すれば、(聞く面では)変化は起きないが、同じ機種でも違  
う機械で再生すると、スピード等が変わることもある。

Q. 2580タイトルのうち、シリーズものなど、中途半端なものがあるか?

A. 各施設の事情、また原本がないなどの理由で製作できなかった。マスターを作っ  
た施設と相談してみたい。

Q. CD雑誌の作り方について。始めと終わりにBGMを入れるのは良くないか?

A. 入れて良くないことはないが、音楽のある部分ではフレーズが切れなかったりす  
るので、しおりなどつけられなくなる。そういった部分には入れないようにする  
などの対処を。

Q. リハ協配布のCDデュプリケータについて。100枚につき1枚の割合でエラーが  
出るか?

A. メディアはメーカーのはっきりしたものを。推奨は太陽誘電、TDKなど。

Q . 編集について...ダミーのセクションだてはどのようなやり方がよいか？

A . 第1階層から3階層まである章と2階層がない章がある原本の場合、3階層の見出しだけを2階層に持ってきて、3階層ではその内容から始める(静岡の場合)。「この階層はダミーです」のアナウンスを入れるところもあるようだが不自然ではないか。

Q . 目次の見出しと本文中の見出しの文が違う場合の対処は？

A . 目次の表示に揃えている(静岡)

切り貼りして目次に本文の足りない部分をつけている(福井)

原本のまま(島根)

### 3 . 以前実施したアンケートに関して

- ・ デイジーコンソーシアム脱退について

- ・ LPスタジオ・プロについて

- ・ デイジー相談窓口の開設

ブロックごとに7名が決定

全視情協加盟の施設職員に限る

原則的には掲示板を使用

- ・ 近畿ブロックよりの申し入れ：デイジー製作基準(奥付)について

以前、提示した基準は変えない。(奥付は原本の位置に置く)

理由...厚生省委託図書2580タイトルが原本主義をとっている。

すでに基準通りに製作している施設もある。(混乱を避けたい)

これまでも、各施設の事情等で基準と違った方法をとっているところもある。

自主学習会(参加者 57名)(26日19:00~21:00)

分科会での発表を受けて、それぞれが関心のあるコーナーで実習を行った。

- ・ デイジー編集についての各種質問(担当:日本点字図書館 天野繁隆)

- ・ MO録音機 DX-5(担当:日本点字図書館 出木場茂樹・川島とも子)

- ・ イコライザー付きミキサー(担当:名古屋ライトハウス盲人情報文化センター 小川俊樹)

- ・ MD録音機(担当:小樽市総合福祉センター点字図書館 遠田芳男)

- ・ マイスタジオ(担当:プレクスター 宇土修一)

(記録:福岡点字図書館 毛利仁美)

### 分科会2「点訳のてびき」の改訂について(26日9:00~12:00)

(自主学習会(26日19:00~21:00)報告を含む)

進行 : 藤野克己

発表者 : 水谷吉文(「日本点字表記法2001年版」改訂原案について)

窪田和代(古文・漢文の点字表記について)

小菅一代(「点訳のてびき」の改訂について)

## 1. 報告・発表

「点訳のてびき」改訂特別委員会より、改訂の目的・委員会の構成・経過とスケジュール等の報告を行った後、「日本点字表記法2001年版」改訂原案について、古文・漢文の点字表記について、「点訳のてびき」の改訂について、それぞれの発表者より説明した。

## 2. 質疑・意見交換

### (1) 「日本点字表記法2001年版」改訂原案について

- a. 規則の説明についての用語の統一を図ってほしい。  
「～てよい」「～てもよい」の意味がわからない。
- b. 情報言語には小文字基本表記・大文字基本表記・ナチュラル表記があることを示した上で、「ナチュラル表記」で表すことを説明してほしい。
- c. 「西郷どん」の用例について、「西郷どん」はけっして愛称ではない（鹿児島  
点字図書館職員より）
- d. 今回、「古文・漢文の点字表記」が表記法に掲載されるが、これを理解できる視  
覚障害者がどのくらいいるだろうか？ 特に、漢文の訓点法などは理解できない。  
視覚障害者にとっては、「日本点字表記法」だけが点字の拠り所なので、このよ  
うに難解な部分は、「数学・理科記号」のように別冊にしてほしい。
- e. 「する」の例外部分についての規則が複雑すぎる。

### (2) 「点訳のてびき」の編集に関する要望・意見

- a. 「日本点字表記法」に書かれているような点字の手紙や公文書の例を入れてほしい。
- b. ニマスあけについての説明は入るのか？
- c. 一般の文章・読み物に出てくる程度の英文・理科・数学記号等の扱いについて  
載せてほしい。
- d. 一般の読み物や現代文の中に古文的な言い回しで書かれていた場合や、主人公  
がふざけて古文的な言い回しをした場合、短歌が出た場合などは、古文の点字  
表記をするのか、または、現代の表記で点訳するのか、解説してほしい。
- e. 原文の誤字・脱字の処理の仕方、レファレンスの仕方も載せてほしい。「活動す  
るあなたに」にすでに掲載されている。
- f. 図表・写真などを文章で説明する場合の説明の仕方も載せてほしい。
- g. 説明カッコが行末にかかった場合の行移しの処理について用例を挙げてほしい。
- h. 見出しが2行、3行になる場合の用例を挙げてほしい。
- i. 目次・奥付の書き方の用例を「書き方の形式」に挙げてほしい。
- j. 標題紙や奥付の原本情報の取り扱いについて触れてほしい。
- k. カギ類の扱いについて、「点訳のてびき第2版」p56（墨字版）(3)(4)の  
用例をもっと挙げてほしい。

(例)「おなかが空いた」「疲れた」「もう眠い」と三人が口々に言い出した。

- l. 「日本点字表記法」では知らぬ間に用例が変わっていたり、消えてしまったりす

るが、「表記法」ではグレーゾーンにあるような用例についても「点訳のてびき」では一步踏み込んで例を挙げてほしい。

(3)「点訳のてびき」のレイアウトについて

a. 墨字表記を先に書くことについては賛成意見があった。

墨字          点字                          墨字 [点字]

墨点字の表記に対しては反対意見のみがあった。

b. 点字一覧表の掲載方法についても賛成意見があった。

(記録:「点訳のてびき」改訂委員 加藤三保子)

### 分科会3 これからの施設運営(26日9:00~12:00)

司会進行:日本ライトハウス盲人情報文化センター 館長 岩井和彦  
カトリック点字図書館 館長 橋本宗明

本分科会は、昨年実施した施設運営に関するアンケートをふまえ、そのまとめと4施設の事例発表が行われた。

【各施設が当面する事項及び課題まとめ】(全視情協 参与 盛田義弘)

昨年度の会議では、調査結果(回答数84施設)を数字から見た現状報告にとどまった。アンケート結果より、施設の形態を4つに分類することができる。

#### 4 類型

A型:自治体設置及び経営

B型:自治体設置で管理運営は法人その他民間委託

C型:視覚障害者協会等設置で運営は自治体委託

D型:法人(協会)設置及び同運営

また、この類型によって抱える課題も異なってくる。各施設の抱える課題は以下のよう  
に分類できる。

#### 1 建物、施設設備

(1)書庫が満杯となり保管場所に困る。分担保存はできないか。

(2)施設が全体に狭隘化、新しいサービスをするにも場所がないなど対処に困る。

(3)建物が古く、また各種団体等が入り、うまくいかないなど新・改築を希望する。

(4)最近、新築・増築したところでは管理運営経費増で困る。

#### 2 職員体制

(1)職員組織の見直しが必要である。

(2)1県1施設、施設単独採用等で人事交流などができないため職員の意識の改革に結びつかない。人事の刷新が必要。

(3)職員の資質向上のための研修を拡充し参加させたいが、時間、旅費等の問題で実現できない。

(4) 給与、諸手当の問題で自治体と比較すると低いので是正が必要。

### 3 事業

(1) CD図書の普及、製作と貸出利用を図る。

(2) 多様な需要に応じて事業を拡大してゆかなければならない。特に法人等の経営施設では中途失明者からの多様な要望があり、これらの対応についてどうすべきか。リハビリという観点に立った事業の拡大、点字図書館業務だけでよいのか、時代の要請に応じて多様なサービスをすべきである。

(3) 情報化、デジタル化に対応する機器の整備、その機器を使う利用者への技術講習会。

(4) ボランティアの育成とその活用。

(5) 公共図書館との連携。

### 4 予算

(1) 助成金増を求めるよりも、先ず自助努力をすべきである。受益者負担の導入、工夫して寄付金増を図るなど。

(2) 人件費など必要な経費は助成金を増やす方向で関係当局に働きかける。

#### 事例発表1 テーマ：総合福祉センターの設置をめざして

(山口県盲人福祉協会点字図書館 館長 岡本博美)

実質は障害者の総合支援センターを目ざすものであるが、このような事業の展開を目ざすきっかけとなったのは県からの補助金の減額である。職員が確保できる事業を考えないと施設運営が立ちゆかなくなる場面に直面することになった。

点字図書館、点字出版事業、ガイドヘルパー派遣事業、生活支援センター事業などで14名体制を確保。事業増と共に職員も増えることとなった。

視覚障害者団体が他の身体障害者業務を受けて実施することは全国でも初めてのケースである。これからも国の障害者プランに基づく多くの事業と積極的に取り組み、全ての障害者の総合支援センターの確立を目ざしていく。点字図書館はその1部門としての位置づけである。

#### 事例発表2 テーマ：これからの施設運営

(神奈川県ライトセンター 所長 樋口悦朗)

ただ施設運営を効率的、効果的にするだけでよいのかという疑問のもとに、施設の果たすべき役割は何かを求めて新しい取り組みを始めた。

人事の停滞・施設運営中心の考え方の中で、職員の意識改革を図らないと施設が機能しないと認識。この課題をクリアするため、今年度から人材育成のため日本赤十字社内部で人事交流を展開した。他に県立図書館とも人事交流を始めた。

次に啓発事業の重要性について。一般市民の中には理解している人は少ない。取り組みとしては、小学生の見学増加に対処するため教員を対象に夏休み中に研修会を開催。また、学校の人権教育などにも対応している。

地域の人々に理解を深めてもらうため、ボランティア・地域商店街などとお祭りイベントの開催を始める。スポーツボランティアの育成にも取り組んでいる。

### 事例発表3 テーマ：障害者への情報提供と

その自立と社会参加支援事業の充実を目指して

(石川県視覚障害者情報文化センター 所長 石原直行)

事業する上で予算が大きな問題である。安定的財源確保のため、毎年、県へ助成を要求、昨年100万円アップした。また、自助努力の必要もあり、会員会費を引き上げた。現事業の充実拡大と新事業の取り組みにより財政基盤確立を図りたい。利用者のためのセンターであり、県下の視覚障害者すべての自立と社会参加を促進する支援事業は何でもやる意気込みでいる。来年度からは生活訓練事業を始める。

利用者サイドに立ったセンターの展開を図るため、センター運営協議会を設けている。センターで行う事業について利用者からの意見を参考にするものである。

平成15年からは障害者介護保険が始まるので事業者として名乗りを上げ、今から苦情処理の構築をしておきたい。

利用者にきめ細かいサービスができるよう心がける。事業の専門化に伴い、研修には積極的に参加し、専門性を高めて職務を遂行するものである。

### 事例発表4 テーマ：創立60周年を迎える日本点字図書館 - これからの10年の展望 -

(日本点字図書館 館長 田中徹二)

日本点字図書館は11月10日、創立60周年を迎える。用具事業以外、図書の提供一筋に歩んできた。これからもそれを主眼にしてたどることになる。

この10年は、コンピュータ導入により仕事の内容が激変した。そして、その集大成として厚生省の8億6千万円の補正予算がついたことがあげられる。

将来10年先ぐらいを見通した時、デジタル化されたデータをどうやって活用していくか、またどうやって利用者に届けるかが課題となる。例えば、光ファイバーを通じてデータのやり取りを行う、電子図書館に近い形のサービスを考えたい。電話1本で端末に送れるような開発が必要になる。

施設運営面については財政的に苦しい面があり、効率的運営をするため、現在の正職員66名を5年後は60名体制に、また13年度からは第2・第4土曜日を休館日にして経費削減を図る。

この後、いくつかの質問が出され、最後に川越会長のコメントがあった。

## 第19回音訳指導技術講習会（第5回音訳指導員認定講習会）報告

開催日時 平成12年11月16日(木)~18日(土)  
会場 日本点字図書館  
参加者 72名(施設職員 21名、ボランティア 51名)

### 1 講義科目と概要は以下のとおりである。

視覚障害者福祉概論（講師：視覚障害者支援総合センター理事長 高橋 実氏）

- ・視覚障害者にとって情報障害とは単に文字によるものばかりでなく、視覚から入ってくるものすべてである。
- ・情報の提供は正確さと迅速が基本
- ・的確な活動は視覚障害者を知ることから始まる
- ・全国共通の養成カリキュラムが必要
- ・ボランティアする気持ちを盛り上げる指導が大切

ボランティア養成概論（講師：神奈川県ライトセンター 姉崎 久志氏）

- ・養成の目的をはっきりさせる（最終目標をどこに置くか）
- ・講師に期待することを明確に伝える
- ・講座のカリキュラム作成は効果的な内容と回数を考える
- ・アフターケアが大切
- ・指導者の役割分担

グループワーク 校正について（12グループ：1グループ6名）

あらかじめ提出していた課題について校正表をもとに話し合った

- ・校正であげられた事項について、訂正するか否かを検討。
- ・訂正の基準をどこに置くか

話し合いの後、各グループから主な点について発表を行った。

視覚障害者情報提供施設のネットワークシステム(ないーぶネット)

（講師：日本ライトハウス盲人情報文化センター 村井 晶人氏）

- ・ネットワークシステムはよりよいサービスをめざすためのもの  
点字図書・録音図書全国総合目録の検索  
点字出版目録の検索  
オンラインリクエスト
- ・1999年からインターネット化に取り組む
- ・会員になることにより個人ユーザーが直接アクセスできる
- ・録音担当者も情報交換の場として積極的に活用

校正技術（講師：静岡県点字図書館 熊谷 成子氏）

- ・校正の責任は施設にある
- ・校正の目的は著作権法第20条、同一性保持権の遵守
- ・校正の基本は「誤読を拾うこと」と「録音状態の確認」
- ・校正は正確さと迅速さのバランスが必要

音声表現技術1、2（講師：JBS日本福祉放送 恵美三紀子氏）

- ・音声訳は「視覚障害者の目の代わり」としての読み
- ・「情報を伝える」ことを意識する  
読むことは聞くことから始まる
- ・指摘は具体的に、ポイントを絞って
- ・指導の目的は「一日も早く、一人でも多くの活動できる人材を育てること」

調査技術（講師：朝日カルチャーセンター立川 北川 和彦氏）

- ・調査の重要性
- ・辞典の能率的な使い方
- ・読みは一つではないことに注意
- ・調査はマスター製作時間の20～30%まで  
正確さと速さのバランス

## 2 概括

事前申し込みは97名あったが、会場の関係からぎりぎりの72名に絞って講習会を行った。

今回は「校正技術」があったためか、男性ボランティアの参加があった。音訳ボランティアは男性が少ないが、校正は専門分野を持つ男性に期待したい活動であり、今後多くの参加が望まれる。

校正にあげられた事項のうち、音訳者に訂正を依頼する基準についての話し合いは、事前提出資料から危惧されたような偏りはなく、おおむね「誤読」と「音量の変化」について訂正を求めるところに落ち着いた。

「調査技術」について、時間が足りなかったという声が多く、次回からの課題である。講師の熱意と参加者のパワーに包まれ、有意義に講習会を終了することができた。平成13年度は大阪を会場に講習会を行う。（11月を予定）

## 平成12年度ないーぶネット研修会

去る11月21日・22日、「てんやく広場」から全国視覚障害者情報提供施設協会の「ないーぶネット」に移行して2度目の研修会が大阪（日本ライトハウス盲人情報文化センター）で開催されました。当初は例年通りの7月開催を予定していましたが、「総合ないーぶネット」の構築に着手したため4ヶ月ほど遅れての開催となりました。参加施設（団体）数はボランティアグループ4団体を含む77、参加者は117人。開催時期の変更もあり、参加者数の減少を懸念していましたが、「総合ないーぶネット」への期待なのかそれとも不安なのか、いずれにしても事務局サイドの予想を上回る参加者となりました。プログラムが開発途中ということもあり、現時点ではまだ十分な情報を提供できないものもありましたが、参加者は来年4月からの稼働に向けて、各種作業内容について熱心に耳を傾けていました。

以下に研修会のプログラムとそれぞれの担当者及び概略を紹介します。

### 1日目

挨拶 全国視覚障害者情報提供施設協会 副会長 藤野克己氏  
日本ライトハウス盲人情報文化センター 館長 岩井和彦氏

点字図書館等情報ネットワークに対する全視情協の方針と経過報告（藤野副会長）

1988年に日本アイ・ビー・エム社の社会貢献事業「てんやく広場」としてスタートした「ないーぶネット」の今日までの経過を報告するとともに、現在構築中の「総合ないーぶネット」が全視情協の核となるネットワークであり、今後はこれを中心にサービスの向上を図っていくという方針が説明された。

総合ないーぶネットとは？

#### ・どんなシステムか？（襟川 茂氏）

総合ないーぶネットで何ができるのか、何をしようとしているのかについての概要説明を、1) ネットワーク機能一覧、2) 総合ないーぶネットの特徴、3) 総合ないーぶネット実施に際しての各施設・団体の役割、4) 総合ないーぶネット導入の方法と各施設・団体の準備の項目、に分けて説明した。

#### ・会員種別の説明（吉弘裕子氏）

参加している各施設がどの会員種別になるのかを配布資料をもとに各自で確認した。またそれぞれの会員種別ごとの機能についての概略を説明した。

#### ・スケジュール（滝沢政晴氏）

配布される機器等の種類（パソコン、プリンター、バーコード、バーコードリーダー、ソフトウエア）、数量、時期についての説明を行った。また収録されるTRCの新刊全件マークについて収録件数（最大30万件前後）、使用制限等について説明した。

### システムの操作説明

- ・『現行システム』と『総合ないぶネット』機能（操作手順）比較（蕪木克行氏）
- ・ 図書管理システムとネットワークの連携処理の説明（勢木一功氏・吉弘裕子氏）
  - 貸出処理全般の流れ
  - オンラインリクエストの流れ
  - 図書管理システム返却の流れ
  - 登録の流れ
- ・ 管理システムの概要（勢木一功氏）

現行のシステムと総合ないぶネットの機能を一覧表をもとに説明した。システムは現在開発途中であるため操作そのものを画面を追いながら説明することができなかったが、上記2項目について資料上で流れの確認をした。具体的な操作についてはシステム完成後に実施する2月のブロック別研修会で行う。

### インターネット化における個人サポートの説明（金子研一氏）

来年4月にインターネット化された後の個人ユーザーの対応について説明した。現システムの運用は費用面また機能面からも大きな負担があるため早期のクローズが検討されたが、現利用者の状況を考え移行猶予期間を設け、最長2003年3月末までの運用としている。従って、それまでには全ての利用者がインターネットへのシフトを行う必要があり、そのサポートのための基礎知識となる視覚障害者のインターネット使用環境（機器、ソフト等）について説明した。

### 目録入力（サービス委員会：小野俊己氏、梅田ひろみ氏、内山敏子氏）

現在サービス委員会において、総合ないぶネット用の目録入力マニュアルを作成中である。まだ準備版であるが、この資料をもとに今後の目録入力作業で注意すべき点等について説明した。この目録入力マニュアルも2月のブロック別研修会までには最終版が完成し、その時点で再度詳細についての説明が行われる。

### 交流会

ないぶネットに参加する施設やボランティアグループが年に一度顔を合わせる研修会。てんやく広場時代から数えるとすでに十数年の付き合いになる方もおり、また初めて参加したという方もいる中、ハードな研修の場とは異なる和気あいあいとした雰囲気でも今年も交流会が行われた。参加者は81名。雰囲気の良いお店で、美味しい料理を食べながら楽しい交流のひと時を過ごした。乾杯の挨拶は、前ないぶネット事務局長の加藤俊和氏（日本ライトハウス常務理事）、最後の挨拶は点V連の木村文子氏にお願いし、現ネットワーク事務局長の村井氏から〆の言葉をいただき閉会した。

## フリートーク

各地の名産を持ち寄り懇親を深めようと昨年から行っているフリートーク。推薦の宿泊施設のリンクス大阪で行った。お菓子あり、つまみあり、お酒も新潟の「越乃寒梅」を始め各地の銘酒がそろい、参加者は「ないーぶネット」が全国規模のネットワークだということを舌（味）で実感していた。

## 2日目

### 個人会員登録の説明（金子研一氏）

ないーぶネットのインターネット化にともない、オンラインサインアップ（利用登録）の方法が変更になる。これについての説明を行った。

### 初期データベース構築

#### ・LIMASYへの対応（村井晶人氏）

総合ないーぶネットが対応するのは全視情協として開発・提供したLIMASY となる。LIMASY については、データ取りだしと図書管理システムへの移行に際して、1) DBASE 本体の購入が必要であること、2) 項目の違いから手作業での項目の切り分けが必要であること、また3) 項目の配列についても調整が必要であること、などの理由により、経費面・作業面での負担を軽くするために一度LIMASY へデータを移行することをお薦めする。LIMASY からLIMASY へのデータ変更は、全視情協からすでに各施設へ連絡している通り、石川県視覚障害者情報文化センターが窓口となって実施している。（5万円の変換費用が必要）

#### ・初期データベース構築スケジュールの説明（吉弘裕子氏）

#### ・AB01と現行ないーぶネットの切り出しデータの処理（吉弘裕子氏）

切り出しデータの作業手順を、手順書に従ってプロジェクターを使って説明した。

#### ・LIMASY ・CSVからのデータ取込団体の初期データベース構築作業について

（勢木一功氏）

LIMASY ・CSVからの図書管理システムへのデータ取り込みに、特に「図書ナンバーの付け替え作業」について説明した。

#### ・バーコード添付作業の手順説明（白石卓也氏、西ひとみ氏）

パイロット館としてすでに作業を行っている2施設（愛媛・神戸）から、実際の作業状況と問題点等について報告があった。

## 閉会挨拶

全国視覚障害者情報提供施設協会 サービス委員会委員長 小野俊己氏

### インターネット講習会（村井晶人氏）

インターネットをまだ使っていない方を対象に体験講習会を行った。10名程度が参加し、実際にパソコンに触れながらインターネットを体験した。

### 音声機器の説明（蕪木克行氏）

米国で開発されたウィンドウズ用画面音声化ソフトである JAWS（ジョーズ）の実演を行った。参加者は約 30 名。なお、総合ないーぶネットの図書管理システムは視覚障害者職員の音声による作業を可能にするため JAWS を採用することになっている。

---

## 「総合ないーぶネット」の進捗状況について(3)

10月の下旬から12月にかけて、システム開発の作業が大幅に進みました。ここでは、12月13日(水)の定例会で決まった「総合ないーぶネット研修会」を中心にお知らせします。

### 1. 「総合ないーぶネット研修会」日程決まる！

今回のシステム開発に関する研修会を、来年2月に各ブロック別に東京と大阪で行うと予告していましたが、次のように日程が決まりましたので、お知らせします。

（正式な案内は、改めて発送します）

（1）2月15日(木)～2月17日(土)

会場：熊本 対象：九州ブロック加盟施設及び福岡市社協

（2）2月21日(水)～2月23日(金) 会場：大阪

（3）2月28日(水)～3月2日(金) 会場：大阪

（4）3月14日(水)～3月16日(金) 会場：東京

（5）3月21日(水)～3月23日(金) 会場：東京

（晴眼職員 視覚障害職員の2クラス並行実施）

（6）3月28日(水)～3月29日(木)

会場：東京 対象：点字出版所職員・ボランティア団体

対象となるのは機器配布を受けた施設です。(1)～(5)は2泊3日、(6)は1泊2日です。

中・四国ブロック、近畿ブロック、中部ブロック加盟施設は、(2)か(3)にご参加ください。

関東ブロック、東北・北海道・新潟ブロック加盟施設は、(4)か(5)にご参加ください。

視覚障害者情報提供施設の視覚障害職員は、(5)にご参加ください。

各施設・団体の参加者は2名を限度とします。なお、各施設・団体とも、1名分の経費（交通費、宿泊費）は主催者が負担しますので、必ずご参加ください。

参加希望の状況を把握するために、正式な案内の前に参加希望日についておたずねしますのでご協力ください。

### 2. 「総合ないーぶネット」サービスイン

全視情協大会の初日に当たる10月25日(水)に「総合ないーぶネット」がサービスインしました。ただしこのシステムは、現在のところデータの更新やデータアップが

できないので、主にシステム開発に際してのテストに使っています。

### 3．システム管理者決まる

「総合ないぶネット」のサービスインに伴って、滝沢政晴氏（日本点字図書館）がシステム管理者に就任しました。任期は来年3月31日までです。今後、「総合ないぶネット」システムに関するご質問やご相談は、滝沢さんへどうぞ。

連絡先 電話 03-3209-0241 E-mail: takizawam@nittento or jp

### 4．機器等の配布

このシステムを利用するためのパソコン・プリンタ・バーコードリーダーなどの機器類、及びバーコードラベル、切り出しデータなどの配布が始まりました。それぞれ、来年3月の本格稼働に向けて準備を進めてください。

### 5．LIMASY のバーコードを使う際の注意

パイロット館では蔵書登録が着々と進んでいますが、以下の問題が生じたとの報告がありました。

（問題）バーコードが10桁にもかかわらず、9桁で登録されてしまいました。この症状は2件発生しています。

（回答）現時点では、既存の桁数の違ったバーコードを生かすために、図書管理システム上に、登録・貸出・返却の際の桁数チェック機能を持たせていません。そのために、バーコードスキャンの仕方で起こったと考えられます。極端な話では、スキャンの仕方次第では1桁だけしか認識しない場合も想定できます。対処としては、今後、図書管理システムに、バーコード番号入力時に桁数チェックをする機能を設け、桁数チェック（する／しない）を選択できるようにします。

ただし、既存の貼付されているバーコードシール及び配布されたバーコードの両方を使用する、という施設については、この機能は使用できませんので「登録時」は必ず現物に貼付されている桁数と画面上の登録画面で「資料ID」に表示されているバーコード番号を確認する必要があります。

また、今回の現象はバーコード・リーダーの誤読というよりは、Windows側の取りこぼしの可能性が高いと思われますので、バーコード・リーダー側の設定で改善される可能性があります。今回配布されたピットタ を例に取れば、「データ転送間隔」の設定がデフォルトでは最高速である"1ms"になっていますが、これを"5ms"または"10ms"などに変更すれば、読み取り速度は遅くなりますが、桁落ちの発生する可能性は減少します。

登録後の使用についてはバーコードを正しくスキャンすれば問題ありません。

全視情協(開発担当)としては、将来を考え、基本は10桁のバーコードラベルで行くことに決定しました。これにより、桁数チェック機能を活用し、上記の問題に対処することが可能であると考えます。

ただし、あくまでも強制するものではなく、対処方法に添って入力の際に十分注意して行っていただければ既存のバーコードラベルも生かします。

「総合ないぶネット」は、来年3月の本格稼働に向けて着々と準備が進んでいます。

各施設では切り出しデータのチェックや、バーコードラベル貼付などの作業に取りかかっていることと思います。日常の業務に加えての作業となるので大きな負担になることと思いますが、新しいシステムを構築し、このシステムを活用してサービスを充実するために、お互いに連携を図っていきましょう！

## デイジー窓口担当者打ち合わせ会報告

平成12年11月9日(木)、東京で、録音委員会の下に委嘱されたデイジー窓口担当者打ち合わせ会が行われた。出席者と主な内容は以下のとおりである。

出席者：矢葺智子(福島県点字図書館)  
 天野繁隆(日本点字図書館)  
 小川俊樹(名古屋盲人情報文化センター)  
 村井晶人(日本ライトハウス盲人情報文化センター)  
 白石卓也(愛媛県視聴覚福祉センター)  
 辻郷美太郎(長崎県立点字図書館)  
 矢口町子、毛利仁美(録音委員会)

### 主な協議事項

1. シグツナの操作方法、編集などについてサポートしていく。また、マスターの保存方法やMP3に変換の方法、周辺機器・機材、ソフトの情報(製作ソフト)などを提供していく。電話での問い合わせは、急ぎの時に限るものとし、基本的にはメールで行うこと。
2. 総合ないぶネットの掲示板を入口として、別の掲示板を作り、これを活用する。新しい情報を順次書きこんでいく、また寄せられた質問に回答をしていくものとする。水戸大会でのQアンドAなども掲載し、テーマごとに分けていくなど工夫する。「お知らせコーナー」のようなものも設ける。
3. デイジー担当者の意見調整の場も必要。
4. デイジー担当者は、録音委員会の中のデイジー窓口とし、基本的にはブロックごとを担当する。
5. シグツナソフトへの対応策も必要。
6. 今後の担当者の研修・会合については、必要が生じた場合に行う。窓口担当の任期は、今年度末(13年3月)までとする。

など

## デイジーコンソーシアム等に関して

デイジーコンソーシアム退会に関する疑問点や、すでにリハ協から配布されているデイジー図書に関する不良に関して、会員施設から問い合わせがあり、日本障害者リハビリテーション協会の河村宏氏にお伺いしました(下記参照)。これについての回答を文書でいただきましたので次ページに全文を掲載します。

全視情協発第2000-132号

平成12年11月10日

(財)日本障害者リハビリテーション協会  
情報部長 河村 宏 様

全国視覚障害者情報提供施設協会  
会長 川越 利信

謹啓 爽秋の候、貴殿におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は視覚障害者福祉の向上ならびに情報提供サービスの充実にご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本会加盟施設でもあります日本点字図書館より、下記の通り、デイジーコンソーシアムならびに貴協会より配布を受けましたデイジー図書について確認の申し入れがありました。

甚だ恐縮に存じますが、ご回答賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

### 1 デイジーコンソーシアムに関して

本会は去る平成12年6月の全視情協総会においてデイジーコンソーシアム退会を決議し、コンソーシアム理事会においても退会が了承されていると聞き及んでおりますが、平成12年12月末日までは会員としての権利があるとも聞いております。この場合、このたび完成しましたLPスタジオプロの配布を受けることはできるのでしょうか。

### 2 貴協会配布のデイジー図書に関して

全国の視覚障害者情報提供施設は貴協会より2580タイトルのデイジー図書配布を受けておりますが、この中でいくつかの不良個所がございました。日本点字図書館で確認したところ、現在、別紙の通り問題点が指摘されております。このような問題に関して貴協会は今後、修正等の対応策をお考えでしょうか。

(別紙資料「デイジー図書のトラブル」は省略)

平成12年12月3日

全国視覚障害者情報提供施設協会  
会長 川越 利信 様

(財)日本障害者リハビリテーション協会  
情報センター長 河村 宏

### 日本点字図書館よりのご照会について(回答)

貴職ならびに貴協会におかれましては平素より視覚障害者福祉の向上ならびに情報提供サービスの充実にご尽力されており、心よりの敬意を表明させていただきます。

さて、「全視情協発第2000-132号」(平成12年11月10日)にてご照会のありました標記の件について、下記のとおりご回答申し上げますので、よろしくお取り扱いください。

なお、この間名古屋市におけるDAISY講演会、京都市におけるDAISYコンソーシアム総会開催、メルボルン市におけるWBU総会でのDAISYの公式披露と、相次ぐDAISYの開発と普及に関わる重要な取り組みが重なり、かつまた、先般改定いたしました著作権法の施行令が12月5日に閣議決定されるまでに障害を持つ利用者の権利を極力拡大するための障害者放送協議会と文化庁とのぎりぎりの折衝の任にあたり、そのため回答が遅れましたことをご了解いただきたく存じます。

視覚障害者の情報格差を抜本的に解消するためには、IT革命を機にした貴協会のグローバルな視野でのご活躍が不可欠と存じます。今後とも当協会の情報センター事業に対するご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 1. デイジーコンソーシアムについて

デイジーコンソーシアムの会員は、サービスを買っているのではなく、国際標準としてのDAISYを開発し普及することを率先して進めるために相互に権利と義務を分かち合う構成員です。従って、会員の権利と義務は一体のものとされており、WWW上に公開している規約には趣旨に反する行動をとる会員に対する除名の規定もあります。

日本の会員は貴協会と財団法人日本障害者リハビリテーション協会(リハ協)とで構成していましたが、貴協会から口頭で来年度以後の会費納入義務の発生を防止するために直ちに貴協会をデイジーコンソーシアムの構成員から外して欲しいとの緊急の要請があり、リハ協としては単独でコンソーシアムに残り内外の利用者に対して責任を果たす決意と共に、貴協会に一切の義務負担が生ぜぬよう、日本会員の構成員から貴協会が外

れること、会費負担はリハ協が単独で責任を持つこと、をコンソーシアム理事会に直ちに通知し、6月の理事会で承認されました。これをもって、貴協会はコンソーシアム会員としての一切の義務と責任から解放されました。

従いまして、6月までに既にダウンロードしたLPStudioProについては、サポートはありませんが、貴協会会員は使うことができます。各国では6月以前のLPStudioProで製作を始めていますので、すでに貴協会ですぐに入手済みのプログラムで基本的な製作は可能と思われる。

それ以後の評価活動に参加することとLabyrinthen社に対するサポートの請求は正会員の義務と一体ですので、貴協会の会員としての参加とダウンロードサイトへのアクセスは残念ながら認められません。この点については、先月京都で総会に先立って開催されたデージーコンソーシアム理事会で貴協会および日本点字図書館からの質問事項としてはかり、改めて確認したことを申し添えます。

なお、LPStudioProについては、視覚障害者にもアクセス可能なソフトにする契約であり、その開発が本格化するこの時期に多くの視覚障害者が働く施設を会員とする貴協会が脱退を決定したことには全く驚いております。LPStudioProを使うためには、Associate Memberになるという方法もあります。貴協会が脱退を決定して以後、日本ライトハウス盲人情報文化センターとNPO「ひなぎく」が会費納入も完了してAssociate Memberの登録を済ませ、先般の総会で加入が正式に承認されております。

## 2. デージー図書の「不良」について

厚生省の補正予算委託事業は短時間で完了することが必須でしたので、全体で23000時間におよぶ2580タイトルのDAISY変換図書と、601タイトルの法令のすべてを実時間で聞いてチェックして提供することは、与えられた時間と予算の範囲では明らかに不可能でした。従って、当協会は様々な機械的なチェックの方法を開発して、一定のパターンのエラーを効率的に発見し、少しでも早く、多くのタイトルを利用者に届けることを最優先して事業を実施させていただきました。また、選書の段階ではオリジナルのテープの品質とは無関係にまず選書をしていただき、録音レベルが途中で大きく変動するものや、劣化や雑音はひどいが音質補正を施してでも変換すべきものなどを含めて大量の処理を行いました。もちろん事業の形式を整えることを優先すれば、入力レベルが変動するものや変換システムに負担をかける長時間のもの、あるいは構造が極端に複雑なものなどは機械的に排除すれば良かったのかもしれませんが、当協会の方針としてそのような技術的な理由で選書された本を排除するよりは、最大限の技術開発をして処理をするという方針をとり、皆さんに現在ご提供しているSigtunaDARそのものの改良も重ねました。

その後、皆様のおかげで多くの利用者にDAISY録音図書をご利用いただく中で、当協会として取り組むべきいくつかの課題も見えてきましたので、改めて問題のあるタイトルについてご照会させていただき可能な対策について貴協会と協議させていただきたいと存じます。

なお、ご照会の内容として添付されておりました「デイジー図書のトラブル 資料作成：日本点字図書館」というB4版1枚の資料を読む限りでは、指摘されている問題の多くはビクターリーダーの問題であることが目立ちます。

当協会は、点字図書館には利用者への貸出用としてプレクストークを配布し、ビクターリーダーは評価用としてご希望の各施設に1台ずつ貸し出してあります。すでにご案内のようにプレクストークにつきましては、厳密な評価試験をしてプレクストークのソフトウェアのアップデートでの対応を重ね、最終対応までに若干時間のかかる数タイトルについては、暫定的にプレクスター社の責任で代替タイトルを各施設に配布する措置を講じております。

ビクターリーダーにつきましては、利用者に選択の幅を持っていただくことが重要と判断し、当協会が同機の日本語化に無償で協力して利用者のもとにお届けすることができました。この機械もソフトウェアの度重なるバージョンアップによって初めて良くなるものですが、当協会からのバグレポートに対するメーカーの対応がまだ完全ではなく、いくつかの機能上の限界があります。これについても早急の対応を求めているところです。念のため付け加えますが、もちろんビクターリーダーでも殆どのものは読めますので、その携帯性と共に大変有用なDAISY読書機であります。

従って、あるタイトルがビクターリーダーで読めないという場合には、当面はプレクストークで読んでいただくようにご配慮いただければ幸いです。

以上

## 点字技能検定試験せまる!

全視情協 副会長 田中徹二

日本盲人社会福祉施設協議会が実施する点字技能検定試験が、平成13年1月28日(日)、東京と大阪で実施されます。試験問題の製作が終り、墨字問題の印刷、点字・録音化が進行中です。それに伴い、試験当日の実施体制、採点体制等の準備も着々と進めています。3月には試験結果を公表し、合格通知を合格者に発送します。初めての経験だけに、関係者はこれから緊張の日々が続くことになります。

1月15日までに受験票を郵送しますが、第1回試験受験者は、総数646人、男女比は175人対471人、東京会場378人、大阪会場268人です。また、点字化問題、校正問題でテープを利用する視覚障害者は202人(東京113人、大阪89人)となりました。

東京会場は、JRお茶の水駅近くの明治大学リバティータワー、大阪会場は大阪市住之江区のATCホールになりました。試験当日、最寄駅から試験会場まで各所に案内係が立つほか、試験中のトイレへの誘導や点字タイプライター使用者と点字盤使用者の部屋を分けるなど、細かな配慮を用意しています。点字技能認定制度運営委員のひとりとして、東京会場は私が、大阪会場は、日盲社協点字出版部会長の高橋実さんが責任者です。

受験者には、日盲社協事務局からさまざまな連絡が直接届きますが、会員施設の中には、職員・所属ボランティアが受験される所も多いと思います。受験者の反応を今後、運営委員会・試験委員会に伝えるために、私あてにぜひお知らせください。

## お知らせ

視覚障害者生活情報センターぎふ館長 藤野克己氏 厚生大臣賞受賞

12月6日(木) 視覚障害者生活情報センターぎふ館長・全視情協副会長の藤野克己氏が社会参加促進功労者として厚生大臣表彰を受けられ、東京で授賞式が行われました。

藤野氏は、昭和40年から神奈川県ライトセンターに勤務されました。59年からは岐阜訓盲協会点字図書館(現・視覚障害者生活情報センターぎふ)に勤務され、平成2年、館長に就任されました。

同施設は、平成9年4月、それまでの岐阜訓盲協会点字図書館から「視覚障害者生活情報センターぎふ」に名称変更し、地域に根ざした視覚障害者情報提供施設として、点字図書館業務に加えて視覚障害者への生活相談等、サポートのためのさまざまな取り組みを行っています。

厚生省補正予算決定

平成12年度補正予算が確定し、障害者の情報格差解消のための基盤整備として「障害者情報バリアフリー設備整備事業」が行われます。在宅の障害者(児)が容易に使用できる情報機器等を施設に配置し、これらを活用することにより在宅の障害者(児)の情報バリアフリーを促進し、IT革命による情報通信の利便を享受できる環境づくりを進めるものです。身体障害者関係では約13億円が計上されています。

祝賀行事

今秋、2施設で祝賀行事が相次いで行われました。

まず、11月1日(水) 日本点字図書館の創立60周年記念のつどいが行われ、全視情協から藤野副会長が出席しました。また同月10日(金)には東京ヘレンケラー協会の創立50周年記念「感謝のつどい」が行われています。

会員施設の所在地が変わりました!!

デジタル編集協議会ひなぎく

新住所：〒460-0011 名古屋市中区大須3-40-23 大須ビル3F

TEL 052-269-9877 FAX 052-269-9878

JB S 日本福祉放送

新住所：〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10 加ト吉新大阪ビル10F

TEL 06-4806-2941 FAX 06-4806-2942

とちぎ視聴覚障害者情報センター

新住所：〒320-8505 宇都宮市若草1-10-6

TEL 028-621-6202 FAX 028-627-6880 (TEL・FAXは従来のまま)

全視情協事務局のE-mail アドレス変更

全視情協事務局のE-mail アドレスが変わりました。お改めください。

E-mail : naiiv@kurumi.sakura.ne.jp

また、ないーぶネット上の全視情協事務局IDは、UO9X-zsjm です。